

Bridolly

text and
paintings by
Kenji Shimizu

vol. 7 月刊ブリドリ



Flying Dove F6



第七回

志水堅二 しみずけんじ

1971年名古屋市生まれ。オリジナルキャラクター『ブリドリ』をモチーフに絵画、立体などを制作。東西のアートフェア、画廊、百貨店などで個展多数。

オフィシャルサイト

<http://www.kenji-shimizu.com>

りょう ぎん こ しょう 竜 吟 虎 嘯

練馬区美術館にて牧野邦夫の展覧会が開催された。

かれこれ23年前、予備校時代に好きだった作家だ。ダ・ヴィンチやレンブラント、ブリューゲル等が好きだった僕が興味をもったはじめての日本人作家である。

テクニックに走っていた18歳の僕は、描写力だけではない牧野の独特の世界観に心をつかまれ影響を受けた。

牧野の作品に、パレットやギター、レコードジャケット等に描いた作品があるのだが、キャンバス以外の支持体に細密描写でモチーフのみを描き、そこに空間を創造する。平面性と立体性の絡みとでも言おうか、そんな仕事にも共感した。

そう、影響はもちろん受けたし尊敬もするが基本的には共感なのだ。

自分が持っていないものには共感しない。

おこがましいとは思いますが自分と同じ感性に共鳴、共振、共感するのだ。

作品を創り続けていると誰かの作品に「似ている…」と思うことがある。

しかしそれは真似でも偶然でもない。同じ感性の作家なら起り得ることなのである。

この「似ている」は作者にしかわからない細かなニュアンスや感性の部分が多く、図案的な画面上の話だけではないので誰が見てもわかるものではない。

あれから23年経ち、今回ひさしぶりに牧野邦夫作品を観てあらためて気がついた。

平面性と立体性の融合以外にも日本と西洋、現実と空想の融合にも共感したのだと。

Shimizu 